

# 災害応急対策（防災拠点） 検討部会

## 第4回の主な意見

---

令和6年11月12日  
奈良県防災統括室

# 第4回の主な意見

## ■ アクセス整理

	主な意見
1	京奈和自動車を通じて南北拠点を繋げる視点や、拠点を活用した広域的な人・物の動きを作り出すという視点で道路整備も含めて検討の俎上に上げるだろう。
2	南部中核拠点を有効に活用するためには、アクセス性の問題がある。京奈和自動車からアクセスできる道路を整備する必要がある。

## ■ 非常用電源

	主な意見
1	近鉄電車は青山トンネルを境に電力会社が異なるが、どちらかのエリアが停電した場合、すべてのエリアで停止する訳ではなく、送電線さえ繋がれば送電が可能であり、非常に簡便な方法でのバックアップが可能であると思う。災害時における電力のバックアップの方法について近鉄に対して確認いただきたい。
2	電力会社は停電リスクの高い箇所をある程度認識していると思う。県や市町村の行政レベルでもリスクの高いところを、あらかじめ認識し、それを前提とした対策を進めることが重要である。
3	2019年に房総半島を襲った台風では、これまでにない長期停電に至ってしまったので、関西と関東で違いはあるが、似ている部分もあるかと思うので、こういった対応を十分に検討していただきたい。
4	インフラは水道も下水道もガスも電気もよく似た考え方ができていると思っている。大規模なシステム、コミュニティ的な小規模なものでのやりとり、自身での個別調達と、それぞれ段階的なものがある。電気は個別化やコミュニティ化が非常に難しかったが、最近では可能性がある。
5	上下水道におけるコミュニティ単位のシステムのように、発電しながらコミュニティにうまく電力を共有するシステムについて、例えば五條県有地周辺の集落と融通し合えるようなスマートグリッド的なことを考えていくとよい。
6	非常用電源は大事であるが、送電のネットワークがどうなっているかが非常に重要なことであるため、そのデータを関西電力からもらっていただきたい。
7	非常用電源の検討の前提として、紀伊半島で孤立するところはどれくらいあるかはポイント。各市町村で既にどれだけの非常電源を整備されているかは最初に把握した方がよい。
8	どのような電力をどのような形で、いくつ運ぶのかということは検討する必要がある。例えばヘリで運ぶということになれば、大きさ、数、重さは大事なポイントのため、確認をお願いしたい。
9	非常用電源の検討にあたっては、非常用電源のメンテナンスが大事である。停電の問題は、非常用電源を日常的にチェックしないと問題があることがわかっているため、この辺りも含めて非常用電源の問題を検討していきたい。
10	停電の原因が不明ならば対処の方法がないということになりかねないので、冗長化しておくべきである。